

まる消防知識

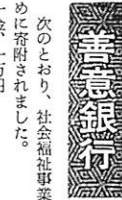


初期の消火が第一
エプロン姿で活躍

猛火の崩ましい傷あとを見て驚奮した串知人会では、串地区、二百九十九世帯、千三百三十二名（昭和四十九年四月調）の生命財産を火災から守るため消防の知識を高めようと、婦人学級最後の日、二月九日午前九時三十分から串小中学校に約百名集り山口消防学校の教官より、火災予防、消火器具の使用法、消火訓練などの指導をうけ、みんなの心構えができて今後の活動が大いに、期待されます。

婦人会長「昼間、男の人は南陽町（富田、福川）その他へ動かしに出る少いとき、火災が発生したら大変！ その留守を守る私達、婦女子は消防の知識をたかめることが大切であります。

串の婦人



次のおと、社会福祉事業のために寄附されました。

一金、一万円
大字上村、松原安生氏より父死亡による香典返しとして。

一金、三千元
大字島地、秋山寿人氏より父死亡による香典返しとして。

一金、百円
堀中学校三年、宇佐川恵子 拾得物謝礼金を寄附。

社会福祉事業のため有効に使用させていただきます。

ありがとうございました。

徳地町社会福祉協議会
人権擁護委員
昭和四十二年一月十五日付をもつて法務大臣から、次のとおり委嘱命令がありました。（順不同）
大字伊賀地九八二 藤井信一氏
大字八坂一、〇九五 藤木彦夫氏

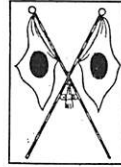
寒げいこ納会

去る、2月4日山口県中学校体育連盟佐波支部、佐波郡剣道連盟共催、武道寒げいこ納会を、堀中学校体育館で開き、中学生58人が参加、紅白試合などを行い盛大に終了した成績はつきのとおり。

佐波郡中学校生徒剣道段位認定
認定者 宇佐見正昭氏
吉松 幾雄氏
田中 実先生
認定生徒名

氏名	学年	過去の段位	新認定位	備考
堀中学校	池田大光	2	3	2 進級
	木江辰	2	2	2 新認
	青沢代次	2	2	2 新認
	木村野勝	2	2	2 新認
	水栗屋志	2	2	2 新認
	坪山武志	1	1	3 進級
	山下節雄	1	1	4 進級
八坂中学校	山本博洋	2	2	2 進級
	本高健	2	2	2 新認
	島川二	2	2	2 新認
	高田猛	2	2	2 新認
	澄田永	1	1	4 進級
	富野孝	1	1	5 進級
	有河野	1	1	5 進級
島地中学校	吉田里夫	2	2	2 進級
	田藤大	2	2	2 新認
	桑原辰	2	2	2 新認
	石井上	2	2	2 新認
	井松邦	2	2	2 新認
	松原千	1	1	4 新認
	茂美茂	1	1	4 新認
串中学校	石山満	2	2	3 新認
	岡二雄	2	2	3 新認
	藤男雄	2	2	3 新認
	中悦政	2	2	3 新認
	近藤政	2	2	3 新認
	高林正	1	1	4 新認
	岡義	1	1	4 新認
袖野中学校	田中豊	2	2	3 新認
	伊藤昌	2	2	3 新認
	松村洋	2	2	3 新認
	河伊青	1	1	4 新認

ライオンズクラブは、優勝旗を佐波郡中学校体育連盟へ贈呈、贈呈式は、寒げいこ納会当日行った。



3月21日(火)
春分の日



No. 130

昭和42年3月1日
毎月1日・15日発行
発行所 徳地町役場
発行者 徳地町
編集者 桑原輝夫
印刷所 今澄印刷所



元気で
行つてネ。

(2月17日午後8時三谷川橋にて)

一秒待つ、心のゆとりが、身を守る
交通安全年間スローガン決まる。
毎月一・十一・二十一日は、交通安全日です。

とび出るな
車は急に
止まれない

「歩行者保護」ということに甘えないで、歩く人は自分を守るためにも、いつも万全の注意をすることが大切です。ことに子どもや行動に対しては、親はもちろん、社会の人みんなが注意し合って、悲惨な事故を防ぎましょう。

町民一人一人が気をつけて、事故ゼロをめざしたいものです。



気をつけて
お帰り。

(2月22日午後3時串小前にて)

保育所・小学校・中学校・高等学校の保護者会

入園 入学 卒業 式など、ご出席は 簡素な服装 にいたしましょう。

徳地町
徳地町教育委員会



公共工事を使用する
鋼材のあつせんについて

建設諸資材の値上りに対して建設省は関係当局と協力のうえ、対策を講じつつありますが、そのうち値上りの著しい鋼材は、社団法人鋼材倶楽部、同地方事務所を通じて品不足の著しい小口の需要先に対し優先して鋼材の供給をあっせんすることになりました。

この場合、業者が申請するとき工事発注者の公共工事証明を必要としますので発注機関に申し出ていただきます。

高



写真は、消防ポンプの操作訓練

あわてず、消火

身近にあるテンプラ掲げのとき

「ぬれタオル」を、おきましょう。

安全な位置に
置きましょう



写真は、消火器の説明
火災予防上安全な距離の基準(単位メートル)

種別	山口消防学校提供			その他 周回0.3 ク 0.2
	上方	側方	前方	
固定式燃料のこまろ	1.0			
気体燃料のこまろ	1.0			
固定式のストーブ	1.5	1.0	1.5	
かまど(表面温度300°C未満)	1.0	0.5	1.0	
ク (ク 300°C~800°C)	1.5	1.0	2.0	
ク (ク 800°C以上)	2.5	2.0	3.0	



写真は、消火訓練

国民健康保険 被保険者証の更新 を、お忘れなく

来る 三月下旬、国民健康保険被保険者証の更新(四月一日付)を行いますので、別に駐在員宛通知いたしますから早急に更新して下さい。

とくに、学や職または病院など一にある保険証は、更新日当日まで道具あるいは建材など引火しやすいものに持ち帰りになり必ず更新されるようお願いいたします。

なほ、この更新がすまない、と被保険者証は、昭和四十二年四月一日以降使用できませんのでご注意ください。

自動車税(県税)が減免

身体障害者の方は
五月一日(四月三十日は日曜日のため)は、自動車税前期分の納期限です。

身体障害者のうち、下肢又は体幹に障害があり、歩行が著しく困難な人が所有し、しかも自ら運転する自動車(事業用を除く)一台については、申請により自動車税が減免になります。

該当の方は、四月二十四日(月)までに、次のものをもってご自分で申請して下さい。

①申請書は、当事務所にあります
②申請書は、四月二十四日(月)まで、次のものをもってご自分で申請して下さい。

③申請書は、当事務所にあります
④四月二十四日(月)までと減免

従業員募集

- 一、応募資格 日製製作所 十八歳以上五十歳までの男子
- 二、試験日時 三月十日
- 三、試験場所 中央公民館(堀)

青少年 育成 県民運動の 呼称・スローガン募集

- 1. 呼称(愛称) この運動が、県民のひとりひとりにも伝わるように、わかりやすく、親しみやすい名前をつけてください。
- 2. スローガン(合い言葉) 運動の趣旨が、ひとごとで理解できるようにを求めます。
- 3. 応募資格 制限ありません。
- 4. 送付先 山口県政課内 県青少年育成県民会課事務内 締切 昭和四十二年三月二十日
- 5. 入賞及表彰 入賞者、呼称の部、10名スローガンの部10名を決定、表彰し記念品を贈ります。
- 7. 応募方法 郵便はがきに呼称スローガンの別に、一枚一点記入し、住所、氏名、年令、職業(在学中の人は学校名、学年)を必ず記入してください。

事業と、とりくむ

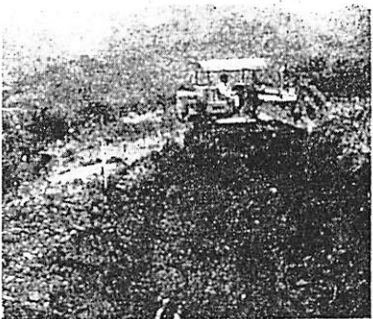
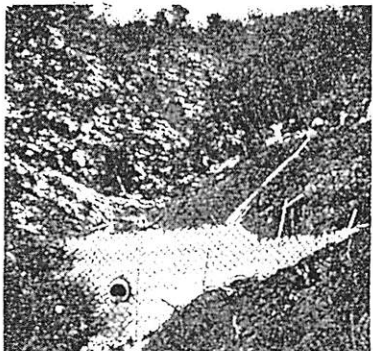
- 一、昭和四十一年度の事業実施は、農業生産のものとなる、土地の条件、水利の条件の整備を図る。
- 二、かんがい排水整備 八個所 二百七十九万五千円
- 三、農道整備 六個所 八百八十八万八千円
- 四、農家経営に大きな伸びを示している畜産部門
- 五、長者ヶ原放牧地整備
- 六、(飼料)免検調製設備(その他)
- 七、道路整備 三、道路整備 一千八百万円
- 八、土木、大土路線の新設

(41年度)

総額三千三百九萬五千元 町費負担三百四十三萬九千元

山村とは

山村振興法の適用を受ける山村とは、法の定める林野面積が旧村単位で、その区域の〇・七五%以上、人口密度が一町歩当り一・一六未満であるとともに、交通、通信、通商施設、生産施設、教育、文化施設、厚生施設、国土保全施設の整備が充分でなく、産業発展の程度が低く、かつ住民の生活程度が劣っている山間地であります。



写真説明
上 町道、柚木、大土路線新設
工事現場
下 台山農道工事現場

進みつつある 山村振興事業

山村と都市
山村振興
四ヶ年計画

従来、山村とは、農山村に包括されるもので、都市の繁栄に対して山村は貧困と考えられるのが常でありました。最近になって、山村地域におけるいろいろな事が「山村問題」として、とらえられ、それが地域発展上、大きな問題の一つとして、とりあげられています。

それは、昭和三十年代に入ってから都市への人口流出が激しくなり、山村の活気がなくなるだけでなく、人口

山村振興法は、このような事を背景として、昭和四十年五月に出来た法律であります。そのねらいは、山村の産業振興と生活環境の整備を図ることによって、山村の経済力をつくり、住民の福祉を向上することにあります。

徳地町は、昭和四十年に山村振興法の指定を受け、四ヶ年計画でこの目標を実現するため、四十一年度初年度事業を進めています。

が滅つたため、防災、教育、医療などの面で、今までの生活を保つことがむづかしく

一方、都市は騒音、煙害、空気汚染、また水が汚いなどの公害、住宅難、緑地不足、交通事故など過密の害が生じて、山村と都市の土地利用や産業部門に差が生じ、つりあいのとれた発展がむづかくなっています。

(一) 都市は人口が多い過密の、(二) 山村は、まばらで将来の生活をさまたげるものであります。